

エダマメ (マメ科)



〔早生種〕 大袖振、早生八重房成、早生房成白鳥、白獅子、サッポロミドリ、鈴茂白鳥

〔中生種〕 中生大さや、茶かほり

栽培ポイント

晩霜の心配のなくなった4月下旬～5月下旬にまきます。やせ地では収穫が少なく、風味や光沢が劣りますので、ダイズに比べ多肥栽培します。

地温が低いと発芽しないため、早く収穫したいときは、4月上旬にポリ鉢にタネをまき、トンネルをかけて育苗をし、本葉が生え始めたころ、畑に2条に植えます。4月上旬までに20日くらいの育苗日数です。植えつけ1週間後に追肥をし、2～3回土寄せをします。じかまきより育苗するほうが、さやつきが密な良質のエダマメがとれます。

じかまきは、4月下旬から5月いっぱいまで行えます。1m幅畝に3条にまきます。株間は18cm。5月中旬以降は20cmとします。タネまきは時期が遅れるほど株が茂るので広くします。鳩がタネを食い荒らすところは寒冷紗をかけておきます。開花始めから10日間は多めに水やりするとさやつきがよくなります。また、開花後に害虫が多いので、スミチオン1000倍液を2～3回散布します。収穫は播種後70～100日、サヤを指で押さえてみて実が飛び出すところが適期です。

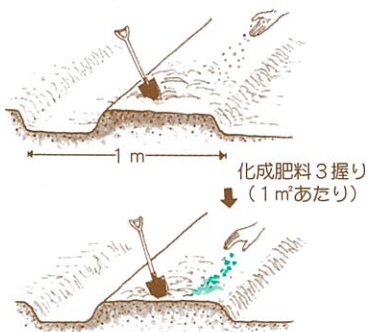
栄養

タンパク質、ビタミンB、C、カルシウムが豊富な、カロリーの高い食品として知られています。

1 畑の準備

畝を作る1週間前に、1㎡あたり2握り半の苦土石灰をまいてよく耕しておく。

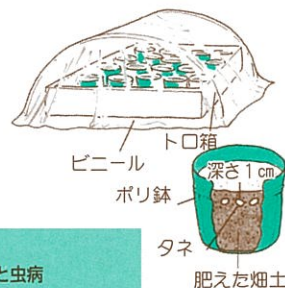
タネまきや植えつけの1週間前に、化成肥料をまいて土にまぜ、1m幅の畝を作る。



2 早まき

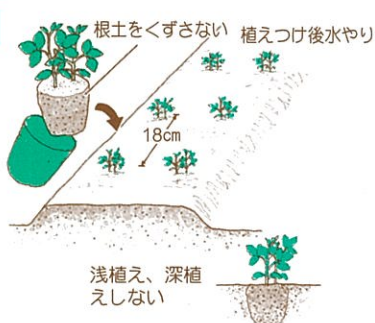
4月上旬に、ポリ鉢に肥え土を入れ、2～3粒ずつタネをまき、鉢を並べてビニールトンネルをかけ、軒下の暖かい日だまりなどにおいて発芽させる。

主な病害虫
◆病気 褐紋病、べと虫病
◆害虫 カメムシ、マメシンクイガ



3 植えつけ

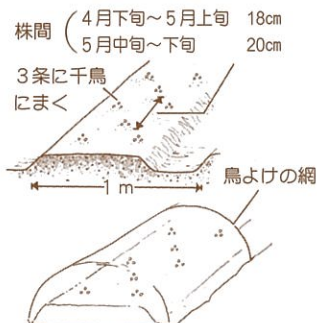
7～10日で発芽する。4月下旬になって本葉が出始めたころ、準備した畝に2条植える。



4 じかまき

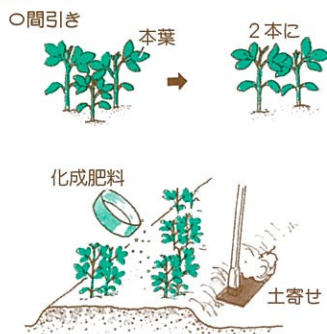
じかまきは、4月下旬から5月下旬まで行えるが、まきどきがおそいほど、株間を広くとる。

じかまきでは、タネや発芽後に鳩などによる被害が多いので、本葉が開くまで寒冷紗や防鳥ネットを張っておく。



5 間引き・土寄せ・追肥

本葉が出始めたころに、1カ所2本ずつに間引き。タネまき後は1ヵ月ぐらゐに、1㎡あたり軽く1握りの化成肥料を施し、土寄せをする。土寄せは、5月に2～3回行い、株が倒れるのを防ぐ。



6 収穫

さやがふくらんで、指でおさえると中の豆が飛び出すようになれば、収穫の適期。収穫が遅れると、実がたくなる。

収獲時期
極早性種 タネまき後70～80日
早生種 タネまき後80～90日
中生種 タネまき後90～100日

